

パブリックコメントの意見募集結果を公表します

健康日本21安城計画(案)

本紙3月1日号及び市ホームページで意見を募集した「健康日本21安城計画(案)」について、貴重なご意見・ご提案をお寄せいただきありがとうございます。

寄せられたご意見・ご提案と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、提出されたご意見は、趣旨を損なわないように要約しました。また、計画原案の内容と直接関係がない意見については、市の考えは示していません。(紙面の都合上、すべてのご意見・ご提案は、掲載していませんのでご了承ください)



寄せられたご意見・ご提案と、それに対する市の考え方及び修正後の「健康日本21安城計画(案)」は、市政情報コーナー、市保健センターで閲覧できます。また、市のホームページでもご覧いただけます。



提出された意見の集計

提出数 提出総数3通(郵送1通、ファクス1通、Eメール1通)

意見の内訳 総数3通を項目ごとに分類すると12件の意見などがありました。

栄養・食生活改善による健康づくりの推進について	3件
予防医療の方法について	1件
アレルギーの人への支援対策について	1件
乳幼児から思春期までの各年代における「栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、たばこ・アルコール等」の取り組みについて	7件

提出された意見により計画(案)を修正した事項

乳幼児期、学童期及び思春期の「栄養・食生活」の取り組みのなかで、幼稚園・保育園・学校及び市が取り組む事項に「食育」、「食に関する指導」の項目を追加し、より明確にしました。

意見 食育の公的教育への導入が必要

食を通じて心身ともに健やかな状態を作り出すため、食文化や地産地消など幅広く総合的な観点での食教育が必要です。

市の考え方 子どもの成長期に食事

に関する幅広く正しい知識を持つことは、一生の健康を左右する大切なことと考えます。また、食事に関する教育の重要性が高くなってきており、小中学校の給食指導や授業の中で、学校栄養職員が食文化や地産地消などを含めた指導も行っています。

意見 アレルギー相談窓口の開設を

今後も「食に関する指導」を通じ、子どもたちが自分の健康を守り、豊かな食生活を送ることができるよう学校、行政、地域などが連携し、「食育」を進めていきます。

近年、アレルギー疾患を持つ子どもが増えています。「何科にかかればいいのか」「食材はどこで調達できるのか」「給食が食べられない」など多くの問題があります。

市の考え方 生活環境や食生活の変

意見 学校に臨床心理士の配置を

化などにより、アレルギー疾患を持つ子どもが増えています。その原因や対処方法も個々に異なりますので、専門医による診断や治療・指導を受けることが大切だと考えます。食事については、給食を通して学校栄養職員が電話や面接で相談に応じています。また、専門的な窓口ではありませんが、市保健センターでも保健師や管理栄養士が乳幼児健診や育児相談でアレルギーに関する一般的な相談を今後も受けていく考えです。

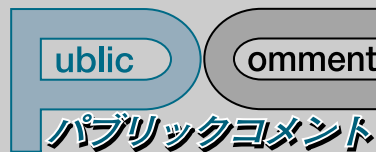
市の考え方 学童期から思春期にか

けては、こころに悩みやストレスを多く抱える時期でもあるため、臨床心理士(スクールカウンセラー)の配置を順次進め、来年度にはすべての中学校に配置の予定です。

意見 子どもの発達段階に応じた性教育授業を

市の考え方 性教育は、できるだけ早い時期から行うことが望ましいと考えられていますので、小学校1年生からの系統的、段階的な授業計画を進めています。今後も、発達段階に応じた内容の授業を実施していく方針です。

パブリックコメント制度



市の重要な政策などを決定する場合に、事前にその趣旨、目的、内容の案を公表し、それに対して市民の皆さんからご意見をいただき、寄せられた意見の概要と市の考え方を公表する一連の手続きのことです。市民の皆さんの市政への参画を促し、行政の透明性の向上を目的としています。

問い合わせ
健康課(保健センター内)
(☎76-1133)